



〔常設展示紹介〕

砂浜は今（2階展示室）

「来るたびに新しい」をモットーに、常設展示場のリニューアルを行って6年。博物館では、今年度も「水辺の植物」「鹿児島県の砂浜」などのリニューアルを行いました。

昨年12月は、2階に「砂浜は今」と題して、植物を中心に展示することにしま



した。特に海岸の植生については、吹上浜の同地点で、1990年と2010年に行った調査をもとに、砂浜に生える特徴的な植物や海岸侵食による植生への影響などを図や写真を使って紹介しています。

海岸線から内陸部までの植物の移り変わりの図を見ながら「約20年で砂浜の様子はこんなに変わるんですね。」と驚かれる方もいました。今後も調査したことをもとに、新しい情報や研究の成果などをさらに紹介していく予定です。

ボランティア募集

5月22日（日）は博物館まつり。博物館ミステリーツアーや動物とのふれあいコーナー、楽しい実験等、県立博物館の楽しい催し物がいっぱいです。

さて、博物館では今、ボランティアを募集しています。この博物館まつりの様々な行事の支援ばかりでなく、標本の整理や将来的には展示場内での展示解説などを支援して下さる方です。

現在博物館にはボランティア組織として中・高校生ボランティア、博物館友の会があります。

中学生・高校生ばかりではなく、年齢を問わずこれまでの経験を生かして博物館のボランティアをしたい方がおられましたら、ご連絡ください。御自分のできる範囲で博物館活動のお手伝いをお願いします。

〔学芸室の窓から〕

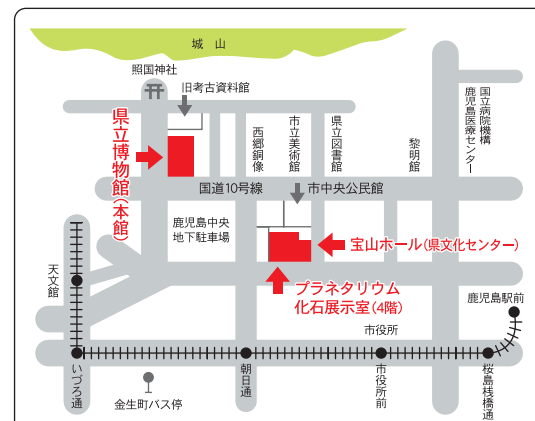
なぜ標本を作るのか

ある日博物館に来た幼稚園児から質問を受けました。「どうして虫に針を刺すの？ かわいそうなのに」

この言葉には色々な答え方があります。よく言いがちなのは「あなたは蚊が血を吸っていると叩くでしょ。それなのに虫を殺すことをかわいそうと、本当に思うの？」というのですが、これは子どもの質問に正面から立ち向かっていません。

「なぜ標本を作るのか？」それは、作ることによって自然を1つ1つ記録し、なりたちを調べることにつながるからです。これを子どもに分かるように伝えることに、私はとても苦しみました。「飼っていた虫が死んだときには、お墓をつくってあげたいと思うよね。でもね、あとで『この前の虫と同じかな？ 違うかな？』と思っても、埋めてあると比べられないでしょ。標本にするのは比べたりして勉強するためなんだよ」という答えが正解なのか、まだ自信がもてません。ただし、犠牲になってくれた昆虫たちを生かすためにも、採集した昆虫はしっかりと標本にし、研究し、展示などに利用していかなければなりません。私もたくさんの昆虫を標本にする中で、カビを生やし無駄な殺生になってしまったことがあります。

園児とのやりとりは、命を奪ったことを肝に銘じ、今後もしっかりと研究しようと誓う瞬間でした。



※駐車場は近くの有料駐車場または黎明館をご利用ください。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL099-223-6050 FAX099-223-6080
<http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>



桜島と月食 2010年12月21日18:10～19:00（10分おきの写真を6枚合成）鹿児島市紫原から撮影

日々 発見！ 感動！

次長 堂免 健一

南北に長い鹿児島県は、自然がいっぱいです。でも、今では、失われていく自然もたくさんあります。また、外来の生物もたくさん入ってきています。

私が子どもの頃（昭和40年代）、遊び場でもあった田んぼでは、カエルやフナ、メダカやドジョウがいっぱいて網ですくって遊んだものです。田んぼは、田植えや稲刈りなど、その時どきの遊び場でもありました。今では、フナやドジョウはほとんど見かけなくなりました。

博物館では、1階エントランスの奥に水槽が並べてあり、小型の淡水魚を飼育しています。幼児や小・中学生、また大人の方にも人気があるコーナーの一つです。その中に大きさや姿・形がよく似ていて、一見、見分けがつかないメダカの水槽とカダヤシ（蚊絶やし）の水槽があります。

さて、カダヤシのことをどのくらいの方がご存じでしょうか。カダヤシは、昭和46年ごろ、県内でボウフラ駆除のため溝に放流され

繁殖したもので、北米東南部原産の外来種です。メダカだとばかり思っていたものが実はカダヤシで、生態系を乱すということで飼育が禁止されている特定外来種だと知った時、それは驚きと同時に大きな「発見と感動」でもありました。みなさんが飼っているメダカはどうでしょうか？ぜひ博物館で調べてみてはいかがでしょうか。

博物館では、私たちが生活の中でなかなか気づきにくい自然や環境の変化などについても、身近な生きものなどを使って展示・紹介し、理解を深められるよう工夫しています。

「本物を見ていただく（継続した資料収集や調査研究に裏打ちされた本物の展示）」をモットーに、「見て・聞いて・おもしろい」、「また来たい」博物館を目指して職員一同、日々活動しています。また、博物館内・外を問わず、自然紹介授業や自然観察会など、学校教育活動や生涯学習などの支援も行っています。

ぜひ、ご来館いただき、「発見！感動！」を体感してください。